



今回の写真は、先日の「毎月歩く高尾山-3月②」の際に、日影沢で撮ったタカオスミレです。ヒカゲスミレの一品種で、葉の色が暗赤褐色になったものをそう呼んでいます。ヒカゲスミレとの相違は葉の色だけなので種として区別するほどでもないという。高尾山以外でも咲くらしい。

世界中のスミレ科には23属約800種あると言われていています（著者によって多少の違いはある）。発祥の地は南米のアンデ

ス地方とのこと。元々は木だったという。それが寒い地方に広がっていく中で草になったという。いまでも世界的にはスミレ科の大半が木というから驚きです。日本に自生しているスミレ科はスミレ属のみで、約50種とも60種とも言われています。細かい品種まで数えると約200種ほどになると言われています。

例えば、タチツボスミレです。花の色が淡紫色の、よく目にするスミレです。基本は無毛ですが、葉や茎、花柄に白い短い毛が生えていると「ケタチツボスミレ」とか葉の表面の葉脈に沿って赤い斑が入っていると「アカフタチツボスミレ」、花弁が白で距だけが紅紫色のタチツボスミレを「オトメスミレ」、花弁も距も白いものは「シロバナタチツボスミレ」などどやるので品種が増えていくばかりです。「タチツボスミレにはこんなバリエーションがありますが、全部タチツボスミレです」ってことにならないかな！

TAKAO 599 MUSEUMのHPによれば、高尾山で確認されたスミレは33種もあるそうです。「希少なもの、今は見るできないもの、雑種が含まれます」の断りがついています。高尾山が「スミレの山」と言われる所以です。同じHPには「高尾山でよく見かけるスミレ8種」が特徴や開花時期、観察ポイントなど合わせて紹介されています。タチツボスミレ、エイザンスミレ、マルバスミレ、アオイスミレ、ヒナスミレ、ナガバノスミレサイシン、タカオスミレ、コミヤマスミレです。こちらであれば見つけるのはそれほど困難ではないでしょう。この辺りを手がかりに高尾山のスミレ散策に出かけてみるのも楽しいでしょう。

さて6月の確定表をお送りします。6月は梅雨を避けられません。しかし梅雨の晴れ間という言葉もあります。そんな梅雨の晴れ間に巡り会えるのを祈って予定を立てました。まずは、ハヶ岳の南沢に咲くホテイランを見に行くだけのプランです。トレッキングプランです。高尾山はムヨウランがお目当てです。アジサイは青梅花回廊で季節を感じます。駅からハイキングです。後半はレンゲツツジです。信州峠から横尾山の往復は、のんびりと花と展望の両方が楽しめるおすすめコースです。最近行ってないなと思って計画した湯ノ丸山が6月最後です。地蔵峠からはスキー場のリフトを利用して、登りはちょっと楽をします。レンゲツツジの群生ぶりは間違いなし！です。

今年の春はこれからが本番です。花を求めて山に繰り出しましょう。

それでは皆さん、また山でお会いしましょう！